

リーディングDXスクール事業【実践事例】

たつの市立龍野東中学校（兵庫県）【指定校】

【取組内容】 教育データを活用した不登校の超早期的発見【⑤】

1 <はじめに>

不登校は、児童生徒の学習機会の喪失、社会的自立の遅れ、精神的な健康問題など、深刻な影響を及ぼす可能性があります。不登校の長期化を防ぐためには、早期発見・早期対応が重要ですが、従来の対応は、欠席日数が一定数を超えてからなど、事後的な対応になりがちでした。本校では、文部科学省「リーディングDXスクール」事業の指定校として、GIGAスクール構想により整備されたICT環境を最大限に活用し、教育データを活用した不登校の「超早期的発見」システムの構築を目指しています。本報告書では、事業計画書「指定校の取組を踏まえた、指定校としての努力目標」に記載した内容に基づき、「学校適応感調査」と「ストレスチェック」を活用したスクリーニングによる、不登校の超早期的発見の取り組みについて報告します。

2 <目標設定>

- (1)不登校傾向の生徒を、欠席日数が顕在化する前に、可能な限り早期に発見する（超早期的発見）。
- (2)学校適応感調査とストレスチェックの結果を組み合わせ、多角的な視点から生徒の状況を把握する。
- (3)スクリーニングの結果に基づき、個別の生徒に応じた早期支援を迅速に開始する。
- (4)教職員の負担を増やすことなく、効率的かつ効果的なスクリーニングシステムを構築する。
- (5)データ分析を通じて、不登校の要因や傾向を把握し、学校全体の不登校予防対策に役立てる。

3 <実施内容>

学校適応感調査の実施 ストレスチェックの実施 スクリーニングと早期支援

4-1 <成果>

従来の欠席日数による把握よりも早期に、不登校傾向のある生徒を発見できるようになりました。また、学校適応感調査とストレスチェックを組み合わせることで、生徒の状況を多角的に把握できるようになりました。さらに、スクリーニングの結果に基づき、個別の生徒に応じた早期支援を迅速に開始できるようになりました。

4-2 <課題>

- ・スクリーニングの精度向上（見逃し、誤判定の防止）
- ・教職員の負担軽減（データ入力、分析、連携などの効率化）
- ・保護者、関係機関との連携強化
- ・プライバシー保護、情報セキュリティ対策の徹底

5 <今後の展望>

調査項目の見直し、分析方法の改善など、スクリーニングの精度をさらに向上させます。また、AIを活用したデータ分析により、不登校の予測精度を高めていきます。さらに、教職員のデータリテラシー向上、早期発見・早期対応スキル向上のための研修を充実させます。そして、関係機関との連携を強化し、地域全体で不登校生徒を支援する体制の構築を目指します。